

歳入予算については、町税が昨年のサンマ漁の記録的な不漁などによる町民税の減が想定されるものの、固定資産税が増となる見込みで、約10億5500万円を計上、ふるさと納税による寄附金は、近年の実績を踏まえ、前年度に比較して1億円増の3億円を計上しております。ふるさと納税については、貴重な自主財源としてまちづくりに活かすとともに、地元の特産品を通じて町の魅力を全国に発信できるように、引き続き寄附のしやすい環境づくりに努めます。

また、普通交付税は、国から示されている幼児教育・保育の無償化による地方負担分の算入や単位費用などに加え、厚岸町独自の試算による基礎数値等により交付税額を算定し、これを踏まえ前年度に比較して約6900万円増の約33億9900万円

を計上しております。臨時財政対策債は、国から示されている伸び率による試算を踏まえ、前年度に比較して約2500万円減の約1億4700万円を計上しております。

歳出予算については、義務的経費の人件費では、主に臨時職員や非常勤職員の会計年度任用職員への移行により、前年度に比較して約3億3700万円増の約19億5300万円、扶助費は約2000万円増の約5億5000万円、公債費は約1400万円減の約10億4300万円であります。投資的経費は、子どもを安心して産み育てることができると子育て環境の充実や防災・減災対策、基幹産業である漁業と酪農業の振興事業を進めるため、約33億3000万円を計上しております。

さらに、特別会計と企業会計への一般会計からの繰出金等は合計で約11億円を計上し、一般会計と6つの特別会計及び2つの企業会計を合わせた当初予算案の合計では、約157億9900万円、前年度に比較して7・5パーセント、約12億7400万円の減であります。

このような歳入と歳出の見通しの中、一般会計の収支不足額は、前年度に比較して約2億800万円増の約10億8300万円となり、同額を基金から取り崩し、収支の均衡を図っております。



今後、安定した財政運営を行うためには、基金残高の確保が必要となります。そのため、取り崩した基金を年度内に可能な限り積み戻すことができるよう、自主財源の確保や経費節減、事務・事業の適正な執行に努めてまいります。

現時点において国では、令和3年度までは平成30年度の地方財政計画の一般財源の水準を下回らないよう確保するとしていますが、それ以降は不透明な状況にあります。

地方財政を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いていることから、今後の地方財政対策に注視しつつ、財政健全化の取組を緩めることなく継続し、『第6期厚岸町総合計画』に掲げた財政健全化指標の目標達成に努め、将来にわたって持続可能で安定的な財政運営を推進してま

います。

むすび

以上、令和2年度の町政を執行するに当たっての基本姿勢と主要な施策の概要について申し述べました。

これらの施策一つ一つを着実に推進することが、厚岸町の新時代を創り上げるとともに、これらの施策は、誰一人取り残さないを合言葉とし、17のゴールを掲げる世界共通の目標である『持続可能な開発目標(SDGs)』の達成に向けた取組でもあり、厚岸町の未来を創り上げることは、同時に、世界の未来を創り上げることにもつながります。

『大事をなさんと欲せば、小なる事をおこたらず勤むべし、小つもりて大となる』江戸時代後期の農政家であり、思想家でもある二宮尊徳翁の言葉であります。どんなに大きな偉業も、一つ一つの小さいことの積み重ねによって、成し遂げられるということを説いた言葉であります。

『第6期厚岸町総合計画』に掲げた『みんなのあつけし、新時代の創造に向かつて』その一步を共に踏み出すうではありませんか。

町民の皆さん、そして町議会議員の皆さんの一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和2年度の町政執行に当たっての、私の所信とさせていただきます。

